

W019 竜ヶ岩洞の地質(静岡県GEO DATA(14) :
地学散歩(93))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小野寺, 秀和 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024557

W019 竜ヶ岩洞の地質



竜ヶ岩洞は、秩父中古生層に属する地層に形成され、竜ヶ石山の南麓に開口する。総延長は1046mあり数十本の洞窟群から構成されるが、洞窟の延長方向は概ね北東—南西走向の地層に準じて形成されている。洞内では特に「大広間」から「びょうぶ岩」にかけての区間で典型的な地層の走向や傾斜を見ることができる。この「大広間」はまず地下水路を横切る節理面での下刻が進行



国土地理院 1:25,000 伊平

することによって滝が形成され、その後上流側への滝の後退が進んで比較的大きなホールが形成された。その形成過程を壁面に残されたスカラップ (scallop) や滝面跡に残された縦型のノッチ (notch) などの溶食痕に見ることができる。洞壁には石灰岩、輝緑凝灰岩、粘板岩に千枚岩状の様相を呈する著しい片状構造の互層が認められる。「びょうぶ岩」に続く通路の弓なりの空間は、石灰岩に挟まれた片状の非石灰岩層が選択侵食されたことによって形成されたのだろう。

(小野寺秀和)